

フューチャー・フォー・アメリカと2020年7月18日 —第5号

少尉

Jeff Pippenger
2023-09-21

全世界の住民よ、地に住む者よ、彼が山々の上に旗印を掲げるときには見よ、彼がラッパを吹き鳴らすときには聞け。イザヤ書18章3節

モーセによって表されるメッセージを宣べ伝える、エリヤとして表される使者は、底知れぬ淵から上ってくる獣によって通りで殺される。モーセの「呪い」、すなわちレビ記二十六章の「散らし」で表される期間、彼らが踏みにじられたのち、聖霊が神のことばを通して彼らの死体のうちに入る。すると彼らは立ち上がり、その後、天へ昇る。天にあるものとして表されるメッセージとは、三人の天使の永遠の福音である。

また私は、別の天使が天のただ中を飛んでいるのを見た。彼は、地上に住む人々と、あらゆる国々、部族、言語、民すべてに宣べ伝えるための永遠の福音を携えていた。黙示録 14:6。

エリヤとモーセが天に昇る前に、彼らはまず立ち上がる。

そして三日半の後、神からのいのちの霊が彼らのうちに入り、彼らは自分の足で立ち上がった。彼らを見た者たちの上に大いなる恐れが臨んだ。彼らは天から「ここに上って来なさい」と告げる大きな声を聞いた。すると彼らは雲に包まれて天に上って行き、彼らの敵はそれを見た。黙示録 11:11、12。

すべての預言者は互いに一致しており、彼らは皆『黙示録』で一堂に会する。『エゼキエル書』は、霊が人々のうちに入ると、彼らは自分の足で立ち上がると教えている。

彼は私に言った。「人の子よ、立ち上がれ。私はあなたに語ろう。」そして彼が私に語ったとき、霊が私のうちに入り、私を立たせ、私は私に語りかける彼の声を聞いた。エゼキエル書 2:1、2。

エゼキエルは、「終わりの日」において死んでいながらも神の語りかけを聞く神の民を表している。彼らが神のことばを受け入れることによって聖霊の臨在がもたらされ、彼らは自分の足で立ち上がる。黙示録に登場する、打ち殺され、象徴的な一千二百六十日のあいだ街路に放置されて踏みにじられてきた者たちもまた、神のことばを聞く。そのことばは聖霊を彼らの心と思いにとり入れ、彼らは自分の足で立ち上がる。エゼキエルは、彼らが聞く神のことばが何であるのかを私たちに知らせている。それによって、街路で死んだままだったモーセとエリヤによって象徴される全体の運動が命を取り戻し、彼らは立ち上がる。

主の御手が私の上であり、主の霊によって私は連れ出され、骨で満ちた谷のただ中に下ろされた。彼は私をそれらの周囲に巡り歩かせた。見よ、開けた谷には非常に多くの

骨があり、しかもそれらはひどく乾いていた。彼は私に言った、「人の子よ、これらの骨は生きることができるか」。私は答えた、「主なる神よ、あなたがご存じます」。彼はさらに私に言った、「これらの骨に向かって預言し、彼らに言え、『乾いた骨よ、主のことばを聞け。主なる神はこれらの骨にこう言われる。見よ、わたしはあなたがたのうちに息を入れ、あなたがたは生きる。わたしはあなたがたに筋を与え、あなたがたに肉を生じさせ、皮であなたがたを覆い、あなたがたのうちに息を入れる。するとあなたがたは生き、わたしが主であることを知る』」。私は命じられたとおりに預言した。私が預言していると、音がして、見よ、震えが起こり、骨と骨がそれぞれ相手に合わさって集まった。私が見ていると、彼らの上に筋と肉が生じ、その上を皮が覆った。しかし、彼らの中には息がなかった。そこで彼は私に言った、「風に向かって預言せよ。預言せよ、人の子よ。風に言え、『主なる神はこう言われる。四方の風よ、来たれ。息よ、これらの打ち殺された者の上に吹きつけよ。彼らが生きるように』」。私は彼が命じたとおりに預言した。すると息が彼らの中に入り、彼らは生き返り、自分の足で立ち上がった。非常に大いなる軍勢であった。彼は私に言った、「人の子よ、これらの骨はイスラエルの全家である。見よ、彼らは言っている、『私たちの骨は乾き、望みは失われ、私たちは断ち切られた』と。だから、彼らに向かって預言して言え、『主なる神はこう言われる。見よ、わが民よ、わたしはあなたがたの墓を開き、あなたがたを墓から引き上げ、イスラエルの地へ連れて行く。わが民よ、わたしがあなたがたの墓を開き、あなたがたを墓から引き上げるとき、あなたがたはわたしが主であることを知る。わたしはわたしの霊をあなたがたのうちに置き、あなたがたは生きる。わたしはあなたがたをあなたがた自身の地に住ませる。そのとき、主であるわたしが語り、それを成し遂げたことを、あなたがたは知る』と」と主は言われる。エゼキエル書 37章1-14節。

ダニエルとヨハネは、「終わりの日々」に象徴的に殺され、よみがえらされた神の十四万四千人を表している。ヨハネは煮えたぎる油の中で、ダニエルは獅子の穴で。ラオデキアの母から生まれたその運動は、象徴的に殺され、その後によみがえらされる。こうして、それは七つに属する八番目となる。それは第六の教会、すなわちフィラデルフィアの復活であり、教会ではなく運動であるが、それが八番目となる。彼らが葬られず、その死を祝う者たちに踏みにじられるための期間の終わりに、彼らは力強い軍勢として立ち上がる。彼らが立ち上がるのは、神の言葉からのメッセージを聞くからである。三年以上も通りに放置された死体は、骨しか残らないほどに腐敗してしまっている。

干からびた骨は、死者の中からの復活のように行動を起こすため、神の聖霊によって息を吹きかけられる必要がある。聖書訓練学校、1903年12月1日。

私たちは、自分自身のよみがえりの業に与ることを求められている。書かれていることを読み、聞き、そして守ることによって、それを行う。

「私たちにとって最も大きく、最も切迫した必要は、私たちの間に真の敬虔さの復興が起こることである。これを求めることは、私たちの第一の務めであるべきだ。」『セレクトッド・メッセージ』第1巻、121ページ。

この復活をもたらし、ラオデキア的な経験からフィラデルフィアの経験へと導く預言的な「みことば」は、ダニエル書と黙示録に見いだされるメッセージから来る。

「ダニエル書とヨハネの黙示録がよりよく理解されれば、信者はまったく異なる宗教経験をすることになる。」 Testimonies to Ministers, 112-114.

ラオデキヤの律法主義的な宗教的経験は、いのちを与えるメッセージによって変えられる。イエス・キリストの啓示のメッセージは、御自身の創造の力についてのメッセージであり、それはまさしく、信じるすべての人を救いに至らせる神の力である。

律法主義的な宗教しか持たない氷のように冷たい心が、彼らのために備えられているより良いもの-キリストとその義-を見るようになるために、私たちは神からどれほどの力を受けなければならないのだろうか。干からびた骨にいのちを与えるには、いのちを吹き込むメッセージが必要であった。『Manuscript Releases』第12巻、205ページ。

律法主義の宗教は、1863年以降のアドベンティズムによる根本原則からの逸脱に見られるように、背教した宗教である。

「私は筆を置き、魂を主に向けて祈る。主が、干からびた骨のようなご自身の背教の民に息を吹きかけ、彼らが生きるように。」総会会報、1893年2月4日。

黙示録では、イエスは「忠実な証人」である。

また、ラオディキア人の教会の御使いに書き送れ。アーメンである方、忠実で真実な証人、神の創造の初めである方が、こう言われる。黙示録 3:14。

ホワイト夫人は、背きと罪の中に死んでいるラオデキア人に対して「率直な証し」を語る「忠実な証人」はイエスであると私たちに教えており、また、死んで干からびた骨の谷へのメッセージと同様に、そのメッセージが揺さぶりを引き起こすことも教えている。

私が見た揺さぶりの意味を尋ねると、それはラオデキア人に対する真の証人の勧告によって喚起される率直な証しが原因であると示された。これは受け取る者の心に働きかけ、彼に旗印を高く掲げさせ、まっすぐな真理を力強く語らせるだろう。だが、この率直な証しに耐えられない者もいる。彼らはそれに逆らって立ち上がり、これが神の民の間に揺さぶりを引き起こすのである。

私は、真の証人の証しが半ばも顧みられていないのを見た。教会の運命が懸かっているこの厳粛な証しは、軽んじられてきた。全く無視されてきたと言ってもよいほどである。この証しは深い悔い改めをもたらさなければならない。これを真に受け入れる者は皆、それに従い、清められる。

天使は言った、「聞け、汝らよ！」やがて私は、多くの楽器が皆、完全な調べを奏で、甘美で調和に満ちて響くかのような声を聞いた。それは私がこれまでに聞いたどんな音楽にもまさり、憐れみと慈しみ、そして魂を高く引き上げる聖なる喜びに満ちているかのようなのであった。私は全存在を貫いて震えさせられた。天使は言った、「見よ、汝らよ！」そのとき私の注意は、先に見た、大いに揺り動かされていた一団へと向けられた。かつて霊の苦悶のうちに泣き祈っているのを見た者たちが示された。彼らを取り巻く守護天使の隊は倍になり、彼ら自身は頭から足もとまで甲冑をまとっていた。彼らは兵士の一隊のように、寸分違わぬ秩序のうちに動いた。その顔つきは、耐え抜いた苛烈な戦いと、通ってきた苦悶のものがきを物語っていた。だが、深い内的苦悶の

刻印を帯びたその面差しは、今や天の光と栄光に輝いていた。彼らは勝利を得ており、そのことは彼らのうちから最も深い感謝と聖く厳かな喜びを呼び起こした。

この一団の人数は減っていた。途中でふるい落とされ、道端に取り残された者もいた。勝利と救いを尊び、それを得るために忍耐強く嘆願し苦闘した者たちに加わろうとしない、無頓着で無関心な者たちは、それを得られず、暗闇に取り残された。そして彼らの場所は、真理をつかんで隊列に加わったほかの者たちによってただちに埋められた。邪悪な天使たちはなおも彼らの周囲に押し寄せたが、彼らに対しては何の力も及ぼせなかった。

私は、よろいを身にまとった者たちが大いなる力をもって真理を語るのを聞いた。それは効果を上げた。多くの人々が束縛されていた。ある妻は夫によって、またある子どもは親によって、真理を聞くことを妨げられていた誠実な人々は、今やそれを熱心につかみ取った。親族を恐れる心はすべて消え、彼らにとっては真理だけが高く掲げられた。彼らは真理に飢え渴いていた。それは命よりも愛しく、尊いものであった。私は、この大きな変化をもたらしたものは何かと尋ねた。御使いが答えた、「それは後の雨、主の御前からの潤い、第三天使の大いなる叫びである。」初期の著作、270、271。

激しい揺さぶりの後に軍勢を起こすラオデキアへの率直な証しは、干からびた骨の谷へのメッセージであり、その骨は、2020年7月18日に街路で、底知れぬ淵から上ってきた獣によって殺された、モーセと使者エリヤのメッセージを表している。

眠っている人々を目覚めさせるために、私たちの諸教会と諸機関に対して率直な証しをしなければならない。

主の御言葉を信じて従うなら、着実な前進がなされる。今こそ、私たちの大いなる必要を見よう。主は、干からびた骨にいのちの息を吹き込まれるまでは、私たちをお用いになることができない。私はこう語られるのを聞いた。「神の御霊が心の奥底に働きかけることがなく、そのいのちを与える感化がなければ、真理は死んだ文字となる。」レビュー・アンド・ヘラルド、1902年11月18日。

私たちは、七つの雷の歴史を表す四つの道標が、あらゆる改革の路線に見いだされることを示してきた。それに関連して、各改革の路線では、その四つの道標のそれぞれが同じ預言的テーマを表しているという事実がある。モーセの場合、七つの雷を象徴する四つの道標それぞれにおけるテーマは、選ばれた民との契約であった。ダビデの場合は、神の箱であった。キリストの場合は、死と復活であった。ミラー派の場合は、一日一年の原則であった。

フューチャー・フォー・アメリカでは、それはイスラムである。2001年9月11日にはイスラムだった。2020年7月18日にも、失敗した予言、最初の失望、そして遅延の時期の始まりとともに、再びイスラムだった。立ち上がる強大な軍勢を生み出す第三の道標は、四つの風のメッセージであり、それは聖書の予言における「怒れる馬」であるイスラムを表している。

天使たちは四方の風を押さえている。それは、つなぎを断ち切って全地を駆け抜け、その行く先々に破壊と死をもたらそうとする怒れる馬として表されている。

私たちは永遠の世界のまさに瀬戸際で眠っていてよいのだろうか. 私たちは鈍く、冷たく、死んだようになっていてよいのだろうか. ああ、私たちの教会において、神の霊と息がその民に吹き込まれ、彼らが自分の足で立ち上がって生きることができますように. 道は狭く、門は狭いのだということを私たちは見極める必要がある. しかし、狭き門を通り抜けると、その広がりには限りがない. 『Manuscript Releases』 第20巻、216、217頁.

エリヤとモーセが立ち上がるやいなや、彼らはしるしとして天に引き上げられる.

そして、彼らは天から彼らに向かって「ここへ上って来なさい」という大きな声を聞いた. 彼らは雲に包まれて天に上って行き、彼らの敵はそれを見ていた. 黙示録 11:12

モーセとエリヤに象徴される旗印については、次回の記事で取り上げます.